



## 2020年11月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年4月8日

上場会社名 株式会社サーラコーポレーション

上場取引所 東名

コード番号 2734 URL <https://www.sala.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 グループ代表・CEO (氏名) 神野 吾郎

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 武川 裕樹

TEL 0532-51-1182

四半期報告書提出予定日 2020年4月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年11月期第1四半期の連結業績(2019年12月1日～2020年2月29日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第1四半期	53,290	4.9	2,359	26.8	2,931	34.1	2,032	35.4
2019年11月期第1四半期	50,799	1.7	1,860	27.0	2,187	40.5	1,501	38.9

(注) 包括利益 2020年11月期第1四半期 1,630百万円 (11.2%) 2019年11月期第1四半期 1,465百万円 (41.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第1四半期	32.66	
2019年11月期第1四半期	24.37	

(注) 当社グループは当第1四半期連結会計期間の期首より、退職給付に係る未認識数理計算上の差異の費用処理方法について、主として定率法から定額法に変更しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当変更を遡って適用した後の指標等となっております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年11月期第1四半期	196,657	60,856	30.4
2019年11月期	195,117	59,667	30.0

(参考) 自己資本 2020年11月期第1四半期 59,687百万円 2019年11月期 58,509百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期		9.00		11.00	20.00
2020年11月期					
2020年11月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年11月期の連結業績予想(2019年12月1日～2020年11月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	120,000	12.0	5,500	15.0	5,700	0.5	3,800	1.6	61.15
通期	224,000	4.8	5,800	6.2	6,300	18.3	4,000	16.9	64.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 有 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(注) 詳細は、添付資料P.08「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年11月期1Q	66,041,147 株	2019年11月期	66,041,147 株
期末自己株式数	2020年11月期1Q	3,683,102 株	2019年11月期	3,903,246 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年11月期1Q	62,237,395 株	2019年11月期1Q	61,624,832 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は堅調に推移したものの、輸出や生産の一部に弱さがみられるなど、景気の先行きは不透明な状況が続きました。期間の後半には新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い国内外の経済活動が抑制され、個人消費や企業収益に影響を与える懸念が高まりました。

このような状況のなか、当社グループ（以下、「サーラグループ」といいます。）は「サーラ元年・これからの成長のスタート」をテーマに掲げた第4次中期経営計画を策定し、重点課題に掲げた「暮らしのサーラの新展開」「サーラの浸透」「変革とチャレンジ」への取組みを開始しました。本中期経営計画においてサーラグループは、質を高める取組みにこれまで以上に注力しお客さまの信頼を獲得するとともに、お客さまのニーズに対して各社、各人の力を結集できるように事業の枠組みを見直します。また、社員一人ひとりが意識と行動を変革することにより計画の実現を促進します。

当第1四半期連結累計期間におきましては、期初に中部瓦斯株式会社とガステックサービス株式会社は合併し、サーラエナジー株式会社として生まれ変わりました。同時に「お客さま起点」「地域軸」に基づく地域販社体制へ移行し、これまで以上にお客さまと向き合い、地域に根差した総合生活サービスを提供します。ハウジング事業のサーラ住宅株式会社は、同社の創立50周年を記念する商品としてアレルギーに配慮した住まい「Best-air+（ベストエア・プラス）」を開発し、2020年1月に販売を開始しました。また、サーラグループが参画する豊橋駅前大通二丁目地区の再開発事業は、現在、本事業によるまちづくりの第一歩となる東棟の竣工に向けて工事は予定どおり進捗しています。サーラグループは、本事業において地域活性化につながるプログラムの推進や施設全体の価値向上に取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高はエネルギー&ソリューションズ事業をはじめ各セグメントともに順調に伸長したことから前年同期比4.9%増の53,290百万円となりました。利益面は売上高の増加に伴い営業利益は2,359百万円と前年同期比26.8%増加し、為替予約に係るデリバティブ評価益が増加したため経常利益は2,931百万円と前年同期比34.1%増加しました。この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,032百万円と前年同期比35.4%増加しました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

#### エネルギー&ソリューションズ事業

売上高27,981百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益2,293百万円（前年同期比4.8%増）

冬期の気温が高めに推移したため、都市ガス、LPガスともに家庭用、業務用の販売量は減少しましたが、大口取引先の獲得により工業用の都市ガス販売量は増加しました。また、2019年7月に竣工した東三河バイオマス発電所が順調に稼働し、業績に寄与しました。以上により、売上高、営業利益ともに増加しました。

#### エンジニアリング&メンテナンス事業

売上高6,726百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益407百万円（前年同期比17.4%増）

建築及び土木部門の完成工事の減少を、設備工事及びメンテナンス部門における空調設備工事などの完成工事が増加することによりカバーし、売上高、営業利益ともに増加しました。

#### ハウジング事業

売上高6,197百万円（前年同期比9.2%増）、営業損失512百万円（前年同期は営業損失491百万円）

住宅販売部門において、2019年6月に連結子会社化した株式会社宮下工務店の実績が加わりました。また、住宅部資材加工・販売部門において、静岡エリアの受注が増加しました。以上により売上高は増加しましたが、分譲住宅の販売棟数が低調な結果となったため営業損失を計上しました。

#### カーライフサポート事業

売上高3,287百万円（前年同期比1.3%増）、営業損失62百万円（前年同期は営業損失155百万円）

アウディの新車販売部門は、前年同期に発生した主力車種の出荷停止による影響が解消したことから販売台数は大幅に増加しました。一方、フォルクスワーゲンの新車販売台数は減少したため、セグメントの売上高は微増となりました。利益面はアウディの新車販売台数が増加したことにより、営業損失は縮小しました。

#### アニマルヘルスケア事業

売上高7,103百万円（前年同期比14.1%増）、営業利益185百万円（前年同期比115.2%増）

畜産部門、ペット関連部門ともに動物用医薬品の販売は好調に推移しました。また、2019年9月に連結子会社化した株式会社エイ・エム・アイ及びホクヤク株式会社の実績が加わり、セグメントの業績に寄与しました。以上により、売上高、営業利益ともに増加しました。

プロパティ事業

売上高1,145百万円（前年同期比9.8%減）、営業利益14百万円（前年同期比67.4%減）

資産マネジメント部門は堅調に推移しましたが、不動産仲介部門は大型物件が減少したため手数料収入が減少しました。以上により、売上高、営業利益ともに減少しました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債、純資産の状況

(資産)

資産は196,657百万円と、前連結会計年度末と比較して1,540百万円増加しました。これは主に、「商品及び製品」が2,780百万円増加したこと、「仕掛品」が1,724百万円増加したこと、「受取手形及び売掛金」が1,675百万円増加したことに対し、「現金及び預金」が3,550百万円減少したこと、「繰延税金資産」が1,019百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債は135,801百万円と、前連結会計年度末と比較して351百万円増加しました。これは主に、「短期借入金」が3,531百万円増加したこと、流動負債の「その他」が1,151百万円増加したこと、「長期借入金（1年内返済予定を含む）」が115百万円増加したことに対し、「未払法人税等」が1,935百万円減少したこと、「支払手形及び買掛金」が969百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は60,856百万円と、前連結会計年度末と比較して1,189百万円増加しました。これは主に、「利益剰余金」が1,442百万円増加（親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により2,032百万円増加、配当の実施により726百万円減少）したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の拡大が当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点における業績への影響は限定的であります。このため、2020年11月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2020年1月14日に公表した業績予想を据え置いています。なお、業績への影響が明らかになった場合は速やかに公表します。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,505	18,954
受取手形及び売掛金	25,410	27,085
電子記録債権	1,572	2,037
商品及び製品	14,096	16,877
仕掛品	14,107	15,831
原材料及び貯蔵品	367	506
その他	6,197	6,214
貸倒引当金	△238	△249
流動資産合計	84,019	87,258
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,877	20,703
機械装置及び運搬具(純額)	9,743	9,808
導管(純額)	19,306	18,894
土地	34,299	34,399
建設仮勘定	1,551	1,760
その他(純額)	1,322	1,172
有形固定資産合計	87,100	86,738
無形固定資産		
のれん	427	433
その他	1,437	1,357
無形固定資産合計	1,865	1,791
投資その他の資産		
投資有価証券	7,841	7,213
長期貸付金	5,145	5,017
繰延税金資産	5,281	4,261
その他	4,312	4,823
貸倒引当金	△449	△447
投資その他の資産合計	22,131	20,869
固定資産合計	111,097	109,399
資産合計	195,117	196,657

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,791	24,821
電子記録債務	4,590	5,025
短期借入金	16,324	19,856
1年内返済予定の長期借入金	11,046	10,763
未払法人税等	2,251	316
賞与引当金	2,481	1,523
役員賞与引当金	8	2
完成工事補償引当金	62	63
工事損失引当金	69	76
ポイント引当金	271	271
その他	14,132	15,284
流動負債合計	77,030	78,005
固定負債		
長期借入金	41,237	41,636
繰延税金負債	499	102
役員退職慰労引当金	202	199
株式報酬引当金	246	284
修繕引当金	112	119
退職給付に係る負債	12,191	11,812
その他	3,930	3,641
固定負債合計	58,419	57,795
負債合計	135,449	135,801
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,025	8,025
資本剰余金	25,183	25,183
利益剰余金	27,316	28,758
自己株式	△2,649	△2,493
株主資本合計	57,874	59,473
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	929	467
繰延ヘッジ損益	64	93
退職給付に係る調整累計額	△358	△346
その他の包括利益累計額合計	634	213
非支配株主持分	1,158	1,169
純資産合計	59,667	60,856
負債純資産合計	195,117	196,657

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
売上高	50,799	53,290
売上原価	36,781	38,331
売上総利益	14,017	14,959
販売費及び一般管理費	12,157	12,599
営業利益	1,860	2,359
営業外収益		
受取利息	26	24
受取配当金	30	23
持分法による投資利益	38	-
デリバティブ評価益	63	528
その他	210	116
営業外収益合計	370	692
営業外費用		
支払利息	36	40
持分法による投資損失	-	8
投資事業組合運用損	-	30
その他	7	40
営業外費用合計	43	120
経常利益	2,187	2,931
特別利益		
固定資産売却益	9	8
投資有価証券売却益	-	164
特別利益合計	9	173
特別損失		
固定資産除売却損	4	23
投資有価証券評価損	2	-
特別損失合計	7	23
税金等調整前四半期純利益	2,189	3,081
法人税、住民税及び事業税	260	308
法人税等調整額	410	720
法人税等合計	671	1,029
四半期純利益	1,518	2,052
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,501	2,032



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益	1,518	2,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△75	△462
繰延ヘッジ損益	△1	29
退職給付に係る調整額	25	12
その他の包括利益合計	△52	△421
四半期包括利益	1,465	1,630
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,445	1,611
非支配株主に係る四半期包括利益	20	18

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に係る未認識数理計算上の差異の費用処理方法の変更)

従来、当社グループは、未認識数理計算上の差異の費用処理方法について、主として定率法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間から定額法に変更しております。

2019年12月1日、当社（純粋持株会社）の完全子会社であるサーラエナジー株式会社（旧中部瓦斯株式会社）は、同じく当社の完全子会社であるガステックサービス株式会社を吸収合併しました。この変更は、両社の合併を契機に、その基盤となる人事制度を改訂し雇用の安定化を図ることとしたことによるものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。この結果、遡及適用前と比較して、前第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ23百万円増加し、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が16百万円増加しております。

また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の遡及適用後の前期首残高は204百万円減少し、退職給付に係る調整累計額の前期首残高は204百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年12月1日至2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー&ソリューションズ事業	エンジニアリング&メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフサポート事業	アニマルヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	27,521	5,985	5,674	3,244	6,225
セグメント間の内部売上高又は振替高	456	1,961	6	3	0
計	27,977	7,946	5,681	3,247	6,225
セグメント利益又はセグメント損失(△)	2,188	347	△491	△155	86

	報告セグメント		その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,269	49,921	878	50,799	-	50,799
セグメント間の内部売上高又は振替高	128	2,556	346	2,903	△2,903	-
計	1,398	52,477	1,225	53,703	△2,903	50,799
セグメント利益又はセグメント損失(△)	45	2,019	7	2,027	△167	1,860

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△167百万円には、セグメント間取引消去186百万円、全社費用△354百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 当社グループは当第1四半期連結会計期間の期首より、退職給付に係る未認識数理計算上の差異の費用処理方法について、主として定率法から定額法に変更しており、セグメント利益又はセグメント損失(△)については、当変更を遡って適用した後の数値となっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー& ソリューションズ 事業	エンジニア リング& メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフ サポート事業	アニマル ヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	27,981	6,726	6,197	3,287	7,103
セグメント間の内部売上高又は 振替高	510	1,275	2	2	-
計	28,492	8,001	6,199	3,290	7,103
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	2,293	407	△512	△62	185

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,145	52,442	848	53,290	-	53,290
セグメント間の内部売上高又は 振替高	142	1,933	401	2,334	△2,334	-
計	1,287	54,375	1,249	55,625	△2,334	53,290
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	14	2,326	58	2,384	△25	2,359

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△25百万円には、セグメント間取引消去313百万円、全社費用△338百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。